

成田市自然観察会

里山に秋を探して

野末美由紀（船橋市）

日 時：2022年10月2日（日）9：30～12：00 天候：快晴

場 所：公津の杜駅周辺（里山）

参加者：参加者8名、成田市環境計画課職員3名

担当指導員：小川（洋）、谷、野末、松尾

当日は快晴の秋晴れの空の元で観察会が開催されました。集合場所の京成電鉄公津の杜駅の改札を抜けると、満開のキンモクセイが咲き誇り、実にふくよかな秋の香りを漂わせていました。マスク越しにも香るその香に誘われて、久しぶりに深呼吸をしてみました。自然の中でリラックスできるのは、この『深呼吸』をしてしまう事も誘因の一つだと聞いたことがあるのですが、それだけ植物は、私たちに良い気を出してくれているのだと感じました。そして、香りで季節を感じる機会がある事のありがたさを感じつつ、公津の杜駅から里山へ出発しました。

出発前に、スズメバチへの注意を共有していたのですが、途中のチャノキの花に沢山のハチが群がっており、そこは全員で静かに横切って進みました。道中では、そのほか沢山の種類の昆虫が観察できました。アキアカネが稲刈りの終わった田の上を飛び交い、ノシメトンボが麦わら帽子の上にとまり、ソバの花咲く畑には、モンシロチョウ、モンキチョウ、シジミチョウが舞っていました。バッタやニシキギ科（マユミ、ニシキギ等）の植物を食べるキバラヘリカメムシも観察できました。ジョロウグモのオスはメスへの交尾を、秋が深まる前に終えなければなりませんし、お腹が膨らんだメスのカマキリも沢山発見しました。生きものたちは、寒くなる前のこの時期に、命を繋ぐ準備に大忙しといった感じなのでしょう。そんな折に、彼らのテリトリーに私たちが少しお邪魔させていただきました。

1か月時期がずれると、植物の様子も思った以上に変化があります。この時期は1か月前の下見より、より熟した植物の実をたくさん発見できました。緑だった実が、黒や赤く色づき、食べられる実も沢山ありました。まさに実りの秋です。ムカゴ、アケビ、ガマズミ（ガマズミはもっと寒くなって霜が降りるようになってから甘くなります）など、ちょっと味見もさせていただきつつ、ここでは書ききれないほど沢山の新しい発見を参加者全員で楽しみながら、観察会を終了しました。そうそう、驚いたことに、林の中で、まだツクツクボウシが数匹、夏の名残を惜しんでいるように鳴いていました。



他の木を巻き込んでそびえるサワラの説明



花が一面に咲くソバ畑に驚きの声